

4. 離島へき地にオンライン診療をどう組み合わせるのか

山口県立総合医療センター

へき地医療支援センター診療部長 原田 昌範

へき地の医師不足は年々深刻であり、非常勤化する診療所が増え、医師が不在となる時間帯は、医療へのアクセスが特に制限される。オンライン診療は元来、離島へき地で限定的に認められてきたが、平成30年にへき地等に限らないオンライン診療の指針が整備された。しかし、その利用はコロナ禍を経ても都市部に集中し、離島やへき地において、有効に活用されている事例はまだ少ない。厚生労働行政推進調査事業として、平成30年度から「へき地医療の推進に向けたオンライン診療体制の構築についての研究」、令和3年度から「海外の制度等の状況を踏まえた離島・へき地等におけるオンライン診療体制の構築についての研究」により、海外調査と山口県の離島へ

き地での実証等を行った。海外調査では、オンライン診療を安全かつ有効に活用するために、クラウド型電子カルテを導入し、オンライン診療を補助する看護師等を活用し、事前のトリアージにAIを併用するなど、オンライン診療を適切に組み合わせ、効率よくへき地に医療を提供していた。山口県の実証では、常勤や非常勤、巡回診療や医師派遣、離島や中山間部など、へき地の状況や医療提供体制を場合分けし、対象エリアを4地域から8地域に拡大した。どのようにオンライン診療を活用すればへき地の医療が確保し続けられるのか、実証中のモデル事例を紹介された。

日本医師会の長島常任理事の総括により、本協議会を終了した。

〔報告：理事 藤原 崇〕

閑話求題

エゴサーチ

宇部市 小野田 秀子

エゴサーチされていますか？

エゴサーチとは、自分の名前などをインターネット上で検索して、評価や評判を調べることで、若者は「エゴサ」と省略して使われている言葉になります。

開業医の「エゴサ」といえば、ゲー○ルなどによる口コミが身近かと思われます。

先日、外来診療中にガムを噛み・ガムを舌に巻きつけながら診察を受ける強者（つわもの）に遭遇した際に、一瞬「マナーなので口に入れてあるガムは出しましょう。」と言おうかな・・・？と頭によぎったものの、この後口コミに悪く書かれる可能性もよぎり、結局は何も言わずに診療を終えました。

その話しを医師会の会合で他の先生方にお伝えした際、皆さんも苦い思いをされておられるようで・・・自分では見ないようにしていても、娘さんや娘さんの友達が親切に「エゴサ」をしてはパパ（先生）に事実確認をされるというお話もありました。

口コミの苦労は全国共通のようで、「悪質な内容の口コミの書き込みにより、営業を侵害された」として、63人の医師らがGoogleを提訴した」というニュースが入ってきました。

個人的には口コミに思い当たる節もあるので、提訴することはありませんが・・・

元来、余計なことを言いがちな自分への戒めとして、明日も口コミを気にしつつ、診療を頑張って参る所存です。